

# 選択の対照的説明の不在に訴える自由意志懐疑論の批判的検討

李 太喜 (Taehee Lee)

東京大学

本発表では自由意志の哲学の領域において、私が「選択の対照的説明の問題」と名付ける問題に対する解決の一試案を提示する。この選択の対照的説明の問題は、リバタリアン的な自由意志の存在に対する懐疑的論証から引き出されるものであり、私が T・ネーゲルの『どこでもないところからの眺め』第 7 章において鮮やかに提示されていると考えているものである。ネーゲルはそこで、リバタリアン的な自由意志の概念に必要不可欠だと考えられる自律性 (autonomy) の日常的な理解が理解不可能な信念 (no intelligible belief) であることを次のように論証している。

自由意志概念に含まれる自律性の理解には、①可能な行為についての複数の選択肢が存在すること、②行為者自身がそのうちから特定の一つを選び取っていること、が含まれている。さて、何かを選び取られる時、なぜその選択にするのか(「なぜΦするのか」)の説明は、その選択を正当化する理由によって与えることができる。しかし、この理由による正当化の説明は、①で言われている行為者に因果的に可能であった「いずれの」選択肢に対しても与えることが可能である。そうであれば、理由による説明では「なぜ行為者が、因果的には可能であった別の選択肢を選ばずに、実際のその特定の選択肢を選び出したのか(「なぜ可能なΨではなくΦをするのか」)」についての説明は与えられないことになる。しかし、その説明が出来ないのであれば、②行為者自身が選択肢のうちから特定の一つを選び取ることができているとはとても言えないことになってしまう。従って、自由に含まれる自律性は理解不可能なものである。

本発表では、ここでネーゲルが与えられないとする後者の説明のことを「選択の対照的説明」と呼ぶ。そして、その選択の対照的説明が不可能であるゆえに当の選択は行為者自身の選択と言えず、よってリバタリアン的な自由意志に含まれる自律性は理解不可能になってしまうという問題を「選択の対照的説明の問題」と呼ぶ。この問題を提示するネーゲルの論証は、自由意志論において一般的に運論証と呼ばれるものの一つのヴァリエーションと見ることができ、従って彼の提示する問題の解決は自由意志論の議論として重要な意義を有すると言える。

本発表ではこの問題に対して、ネーゲルの主張に反し、選択の対照的説明の不在はリバタリアン的な自由意志に対する懐疑的な結論を引き出さないという方向で議論を展開する。発表の構成としては、まずネーゲルの論証を紹介し、論証自体に対する幾つかの疑義を検討する。とりわけ、理由の正当性の強弱に訴えることで選択の対照的説明が与えられるのではないかとする疑問に対して、それができないことを指摘する。その上で、これまでに提出されてきたいくつかの解決案を簡単に確認し、その上で私自身の解決案を提示する。

その解決案の粗筋は以下の通りである。まず、ネーゲルによる選択の対照的説明が不可能であるという指摘を正当なものとして評価する。従来であればこのような問題に対して、自由意志の懐疑論を否定したい立場からは、対照的説明を与えることが出来るという向きで応答することが常であった。一方、私はむしろ対照的説明が不在であることを率直に認める方向で応答したい。しかし同時に、対照的説明の不在が行為者の自律性および自由意志を損なうわけではないことを指摘する。それというのも、複数の選択肢から一つを選択することが行為者自身によるものであることは、決して理由に基づく選択の対照的説明という観点のみから理解されるわけではないと考えられるからである。ここで私は、選択によって自己（行為者）という存在が作り上げられること、すなわち自己が選択構成的であるという側面に注目する。この構成的関係に着目することで、選択の対照的説明が不在であったとしてもその選択が行為者自身によるものであると言いうる道筋を示す。最終的に、選択の対照的説明の不在は自由意志に懐疑的な結論を導かないことを結論する。

対照的説明の不在と、選択と自己の構成関係に関する議論において、高山守が『自由論の構築』で展開している主張を参照する。高山は、私の用語法で言えば、選択の対照的説明が不在であることを、むしろ自由であることの積極的な契機として理解している。この高山の議論を、選択構成的な自己論へ接続させるという形で議論を展開していく。

#### 《参考文献》

高山守 (2013) 『自由論の構築 自分自身を生きるために』、東京大学出版会。

Nagel, Thomas. (1986), *View from Nowhere*, Oxford: Oxford University Press. (トマス・ネーゲル『どこでもないところからの眺め』(中村昇、山田雅大、岡山敬二、齋藤宜之、新海太郎、鈴木保早訳) 春秋社、2009年)